

令和 7 年度（2025 年度）

宇部看護専門学校

学校自己点検・自己評価

学校関係者評価

評価対象期間 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

学校評価（学校関係者評価）

1. 学校自己点検・自己評価の目的

看護師等養成所として「教育水準の維持・向上」と「創意工夫のある教育の追究」を図るため学校自己点検・自己評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の4段階で自己評価する。

- 4 （当てはまる）
- 3 （だいたい当てはまる）
- 2 （あまり当てはまらない）
- 1 （当てはまらない）

3. 学校自己点検・自己評価の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程経営
- IV. 教授・学習・評価過程
- V. 経営・管理過程
- ~~VI. 入学~~（学生募集停止）
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域貢献
- IX. 研究

4. 自己点検・自己評価結果及び学校関係者評価 ※評価点の（ ）は昨年度

I. 教育理念・教育目的【評価点 3.2（3.2）】 II. 教育目標【評価点 3.2（3.2）】

教育理念・教育目的・教育目標は一貫性をもって具体的に設定しており、学則、学生便覧・実習要綱等に明文化している。学生に対しても、オリエンテーション、実習オリエンテーション等を活用して、教育理念・目的を意識するよう指導し、確実に実施してきている。

最終年度に向けて、理念・目的・目標がぶれないように教職員間で連携・共有しながら進めていくことが重要である。

III. 教育課程経営【評価点 3.0（3.0）】

カリキュラムに基づいた教育を実施し、学生の学習の補償について意識して実施している。新入生がおらず学年数が少なくなっているとはいえ、それ以上に教員数も不足した中で十分に授業準備等をする時間の確保ができていないのが現状である。また外部講師の日程調整のため、専任教員の担当授業の時期が集中し負担となっている。

そのような状況下でも、オンラインを活用した研修等に積極的に参加し、自身の成長につなげるよう努めている。

臨地実習については、実習施設ごとに事前事後の連絡会議を行い、本校の教育理念・

教育目的、教育目標についての理解を図り、学生の学びを保障し支援する体制を整えている。しかし、教員数の関係で受持ちが多くなり負担となっている。

教員数の不足による教育課程経営上のひずみができることで、最終的に学生に不利益が生じないように工夫改善を続けていくことが重要である。

来年度は限られた教員数の中で、効果的な教育課程を推進するためのカリキュラムの工夫改善が一層求められる。

IV. 教授・学習・評価過程【評価点 3.0 (3.0)】

授業計画は科目ごとに作成し、ホームページ上で閲覧できるようにしている。また、就業先にも時間割表を送付し学生が学習に取り組みやすいよう協力を得ている。

教授については、常に振り返りをしながら、教授・学習・評価過程を実践している。各担当教員の裁量に任されている部分が大きく、教員数の関係で専門分野以外も担当することがあるため、教員会議で複数の教員の考えを出し合う機会を作るよう工夫している。授業評価等をもとに授業改善に努めているが、学生に対して一貫した指導を行なうために教員間の情報共有を一層強化していく必要がある。

V 経営・管理運営【評価点 2.3 (2.3)】

組織体制として各種会議を設けているが十分機能しているとは言えない。特に、役員（運営委員）と教職員間の共通理解を図り、最後の学生への効果的な支援を充実させ、また閉校に向けた業務を滞りなく行うために協議を重ねていくことが求められる。

財政基盤（経営状況）について、教員への情報共有が十分とは言えない。閉校に向けさらに財政状況は厳しくなると思われるが、教職員全員が意識して参画できるよう情報共有等の体制を見直す必要がある。また、施設設備等の環境に制限はあるが、最後の学生にとってできる限り不利益とならないよう財政状況とのバランスを取りながら計画・実施していく必要がある。

残り1年ではあるが、自己点検・自己評価の実効性を高めることも大切である。

VII 卒業・就業・進学【評価点 2.3 (2.5)】

毎年データ集計を行い、資格取得、卒業後の進路（就業・進学）については、全体指導、個別指導等により教員が相談を受け全力で支えていくように努めている。

卒業後の就業等については継続的な追跡が十分できていない。実習病院に就業している卒業生については、実習会議等を活かして情報収集を行うなど、医療機関、看護協会等の関係機関とさらに連携を図っていきたい。また、会議、調査等を通して得た情報を在校生の就業や進学等に活かしていきたい。

VIII 地域貢献【評価点 1.8 (2.1)】

IX 研究【評価点 1.7 (1.9)】

例年実施されている「山口宇部空港消防救難訓練」等へ参加することで継続的に地域貢献を行っているが、カリキュラムの関係上、今年度空港訓練のみの参加で、地域との関連行事は最後となった。留学生や帰国学生の受け入れは行っていない。

教員の研究活動については、教員数とカリキュラムの関係で十分に時間が取れていないが、教員間で声を掛け合いオンライン研修等に参加するなど研究方法を工夫し、個々の教育力維持向上に向けて日々努力している。